

南区人権を考えるついで

令和4年10月6日(木)

南市民センター 205 人参加
後日 録画配信 243 回視聴

好感・共感・親近感が人権力を育む

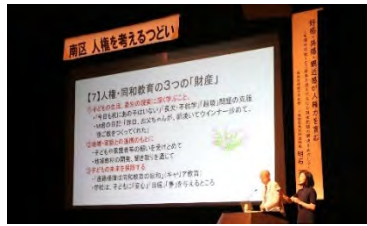
〈全国水平社100周年を迎えさらなる同和問題の解決をめざして〉

明石 一朗 さん (関西外国語大学教授・人権教育思想研究所長)

2年ぶり対面での講演は、子どもに関わる心動かされる実話や課題解決が紹介され、ほろりとしたり納得したり。笑いあり、手品あり、もちろん多くの学びあり、あつという間の1時間半でした。同和問題は、積極的な取り組みによって必ず解決できると明るい展望が示されました。



子どもにしみついた教育は財産になる。同和問題の解決は必ずできる、と語る明石先生



人権・同和の3つの財産

- ①子どもの生活、差別の現実からの深い学び
- ②地域・家庭との連携
- ③子どもの未来を保障

れるとき、幸せを感じることが出来るのです。

不登校の小学生が毎日登校した3要素

子どもには「いじめたらあかん」など観念的な指導ではなく、大人の育みによって、元気に学校に来るようになります。

- ①わかる授業⇨学力向上【知育】
- ②仲のいい友達ができ居場所がある⇨学級集団の仲間【徳育】
- ③ぐつすり・しっかりと・すっきり⇨寝る・食べる・出す、が整う健康な生活習慣【体育】

家庭と地域の教育力3事項

家庭では、会食、会話、役割分担
家庭はハウスではなくホームです。食事をしながら15分以上の会話、そして家庭内では家族それぞれが役割分担をしましょう。

地域では、挨拶、感動、笑顔

相手より先に伝える挨拶、感動を共にし、笑顔を与え合えれば、地域での育みが進みます。

偏見や差別の背景と解決策

偏見や差別は、思い込み、先入観、不正確な噂情報から生じます。人権尊重を確かなものにするのは、好感・共感・親近感、すなわち「出会い・触れ合いを豊かに」

自分に引き寄せる

↓元氣出たよ、勇気が沸いたよ、自分のことにする

正しく学ぶ

↓わかることは、かわること



赤と白のハンカチが・・・手品も交え、人権研修が明るいイメージに

アンケートの感想より

😊 差別は人によって作られた問題だから必ず無くせるといふ展覧がとても響いた (多数)

😊 オンラインでなく直接聞くとより心に響くものがありました。具体的なお話が多くて親しみやすかった

😊 生活の中で私自身も小さな差別をしていたことにハッとしました。周囲で見かけたとき、勇気を出して声をかけてみようと思います

😊 中学生のとき友達ができて「私、部落出身なんよ。仲良くしても大丈夫？」と言われ、私はとても疑問に思って父に相談しました。「その子と仲良くするな」と言ったらどうする？と父に聞かれ、私はすごく怒りました。怒った私を見て父は「それでいい!!」と言ってくれたので、その後もずっと仲良しです。私の子どもにも丁寧に差別や人権のことを伝えていきます